

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
https://www.minakata.org/ (E-mail) minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠…………… 63

「明治35年日記：若き日の駒井徳三（満州国総務長官）のサイン」

文／武蔵大学非常勤講師 岸本昌也

南方熊楠のロンドン時代の日記帳には、孫文に一筆書いてもらった頁がある。あまりにも有名なこの逸話ゆえ、サインをもらうという熊楠の日記帳の使い方はよく知られている。このような使用例は他にあるだろうか。

筆者が顕彰館で1902（明治35）年の日記帳を閲覧していたところ、8月7日条に「夜駒井、杉本二氏来話」とあり、その下に熊楠とは別の筆跡でサインが記されていた。

滋賀県栗太郡常盤村字穴 駒井徳三 / 滋賀県滋賀郡膳所町 杉本喜美 / 当時京都府第二中学校

この年熊楠は6月上旬から4ヶ月間、瀬戸鉛山村の湯崎温泉・有田屋旅館に逗留して採集および酒宴三昧の日々を送るが、8月9日には神島で最初の本格的採集を行っている。

午後…駒井、杉本、松居三氏と網不知より鹿〔種〕島に遊ぶ。…予は島上の林中に入り採集…（日記8月9日条）

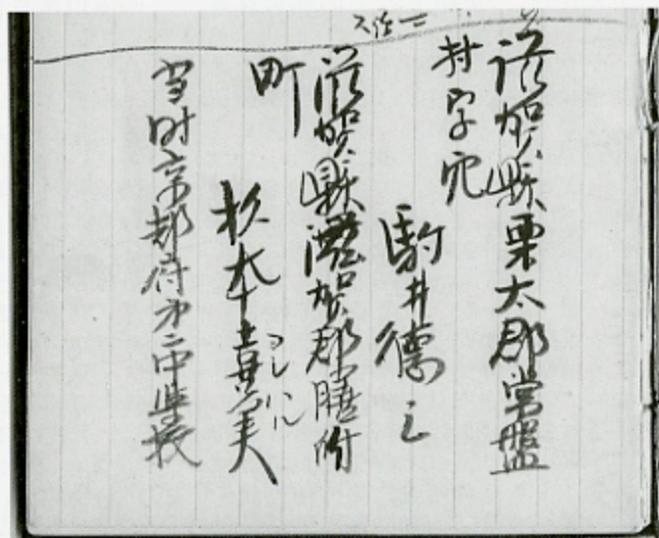
神島への同行者については今まで注目されなかったが、そのうちの二名が熊楠の居室を訪ねてサインを残した駒井と杉本だったのである。二人は共に滋賀県出身、京都府立第二中学校（1900年創立、現府立鳥羽高等学校）に通う同級生で、夏休みを利用して湯崎温泉に来ていたのだった。彼等との交流は8月4日に始まったようで、日記には「午後駒井氏（京の中学生、柳屋にあり、十八才）来り飲酒」とある。駒井がまず熊楠と知り合い、杉本を誘ったものと思われる。尚、もう一名の松居は「京の人名は赤雄」と7月18日条にあるのみで詳細は不明である。

ところで、熊楠と酒を飲み、神島に同行し、日記帳にサインまで残した駒井という若者は誰であろうか。日本近代史上、駒井徳三といえば満州国國務院の初代総務長官を務めた人物である。駒井総務長官は1885年滋賀県栗太郡常盤村字穴に医師の息子として生まれ、京都府立第二中学校を卒業している。1902年は数え年で18才であるから、日記の記述と一致する。その後は札幌農学校（東北帝大農業大学校）に進んで農政や農業経済を学び、南滿州鉄道株式会社に入って頭角を現していく。熊楠が気に入った若者は、将来の満州国高官だったのである。

駒井は戦後、この夏の日を回想している。「忘れられないのは、中学四年生の夏に、有名な生物学の泰斗、南方熊楠先生にお会いしたことである。それは、和歌山県の田辺町の近傍にある鉛山温泉に行った時である。…深海に棲む特殊な蟹が波打際の上っていたので、これを採取していると、そこに真っ裸で裸一ツという恰好の、容貌魁偉な男がやって来て、『それを

俺に呉れないか、俺はそういう物を蒐めているのだが…』という。私はこれに答えて、『いや、これは深海の蟹で珍しいものだから、それは困ります』『それでは、ともかく宅に一緒に来なさい』ということで、私はその男に連れて行った。それは温泉宿の二間ばかりの部屋であるが、よく見ると、そこには私達が垂涎三尺といたいような珍しいものがずらりと並べてある。それも道理で、これは南方熊楠先生の仮の住居であり、私を案内した男が、先生その人であったことはいうまでもない。」（駒井徳三『大陸への悲願』、講談社、1952年）

これが駒井の記憶にある8月4日の出来事であった。



1902年8月7日の日記に書き込まれたサイン（自筆246）

CONTENTS

第33回南方熊楠賞 授賞式	…2
南方熊楠賞受賞記念講演 塚谷 裕一	…3
塚谷裕一先生と和歌山県立田辺高等学校生徒との対談会	…15
講演 熊楠が「死に関する民俗と伝説」で引用した博物書について 郷間 秀夫	…19
講演 電子展示「南方熊楠 菌類図鑑～その整理と混沌～」その作成と公開 細矢 剛	…24
講演 南方熊楠顕彰館はなぜ田辺にあるのか 松居 竜五	…29
田中正造の足尾鉍毒反対運動と南方熊楠の神社祭祀反対運動 武内 善信	…37
南方熊楠研究会 夏期例会報告 神川 隆	…40
「熊楠」生物覚え書 66 土永 知子	…43
南方熊楠と同級生たち 郷間 秀夫	…44
書簡の杜（二十九） 岸本 昌也	…46
書評・書籍紹介 志村 真幸	…48